

第五回日中合同核物理シンポジウム報告書

シンポジウム実行委員長
九州大学大学院理学研究院
教授 郷農靖之

R CNP研究会経費の援助を受けて開催した「第五回日中合同核物理シンポジウム」についてご報告致します。

日程： 2004年3月7日（日）— 10日（水）
場所： 九州大学国際ホール（九大箱崎キャンパス）
参加者： 中国人 28名、 日本人 74名

内容： 添付のプログラムに従い、軽一重イオン、低一高エネルギーに亘る広い範囲の物理に関して発表・討論した。中国からは北京大学、中国近代物理学研究所を初めとする11の大学・研究機関からの参加を得、日本側も北大から九大まで広い範囲の機関から幅広い参加者が参集して議論を盛り上げた。話題としては、日本では理化学研究所、中国では中国近代物理学研究所を中心に推進中の超重元素探査の実験・理論の研究、それに繋がる重イオン反応に関する発表が特に多くなされた。それぞれは最大原子番号元素の観測、新同位元素の観測結果等を発表、超重元素発見への挑戦の姿勢を示し活発な議論がなされた。

又、日本ではKEK-JAERI共同でのJ-PARC Project、理研でのRIBF建設が進行中であり、中国ではCIAEの不安定核ビーム開発、上海のSORリング計画等の予算が認められたとのことで、両国共に意気上がっており、今後の共同研究推進の必要性が認識された。

今回のシンポジウムでは、中国側参加者の活発な議論が目立ち、中国の急速な経済発展にも後押しされてのことでもあろうが、本シンポジウムのシリーズも両国の原子核物理学の進展に寄与して来たことが感じられた。

今回特別セッションを設け、阪大RCNP教授中野貴志教授にペンタクオークバリオン発見の話をして頂いたが、参加者に強い印象を与えたことは特記すべきであろう。